

砂場クリーン作戦復活

青山こども園 初体験で大はしゃぎ

建設未来協議会

県建設業協会建設未来協議会(鈴木達一会長)の地域貢献活動である「砂場クリーン作戦」が9日、銚田市の青山こども園で待望の復活を遂げた。砂場の清掃作業では、園児もバケツで一生懸命に手洗い。重機試乗体験も実施し、感多に味わえない体験にしては目を輝かせた。内務部長(副会長)も「3年ぶりの開催を無事に終えることができて良かった」と喜んだ。



砂場クリーン作戦は、保育園等の砂場を、建設事業者の技術を生かして清掃し、衛生的で安全な遊び場を子どもたちに提供することも、



建設未来通信

の。

2014年度から始まり、19年度まで定期的に行われていたが、20年度と21年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施が困難であった。今回は事前道路工事を取り除き

た絵本で学習し、園舎の建築の過程も学んだという。オリジナルのロゴを入れたヘルメットも用意するなど、準備は万端。全員が作業体験や重機の試乗体験を通じて、建設の魅力に触れた。

作業終了後は、園児から「質問コーナー」ヘルメットはどうして固いの?」「家一コロナ禍であっても、子どもはたくさん作るのは大変!」もたちの発達のために社会



「じゃない?」とのふれあいの場を用意しなればいけないという役割がある。本日の体験を通じて、こういった面白い仕事をしたい人が身近にいるんだ、と知れたことは非常に価値がある。貴重な体験だったと思う。未来協議会の皆さまには感謝しかない」と話した。

内務部長は「関係者の皆さまに活動をサポートしていただき、全面的に協力していただいた。未来園へのイベントはこのクリーン作戦がメインであり、有難い事業であると考えている。来年以降も開催できれば」と意気込んだ。

茨城新聞

銚田のこども園 砂場をきれいに

建設未来協議会

県建設業協会の建設未来協議会(鈴木達一会長)は9日、銚田市安塚の青山こども園(小松崎高司園長)で、園児たちが使う砂場を

砂入れ作業を手伝う園児ら



きれいにするボランティア活動を行った。園児たちも砂入れ作業を手伝い、仕事の一環に励んだ。

同協議会は県内の若手経営者らで組織し、砂場再生ボランティア活動は今回で7回目。会員ら20人が参加した。同協議会地域貢献活動委員会の根本昌樹委員長は、参加した園児らを前に「一緒に砂をきれいにして気持ちよく使えるよう頑張りますよ」とあいさつ。小型重機で園内の砂を取り出した後、砂ふるい機を用いて小石や異物などを除

去。消毒剤で除菌・抗菌処理を行って、砂を入れ直した。小型重機への試乗体験もあり、子どもたちは大喜びだった。小松崎園長は「今日のたのしい活動を通して、子どもたちは遊びを通して学ぶ機会を頂き感謝した」と話した。